

“黄金湯”が舞台！

感動の毎日を過ごしています

渡辺由起子さん

黄金湯経営

株自由起画 代表取締役



札幌市で看護師・保健師として経験を積み、その後平成8年から青年海外協力隊としてネパールで2年、余りを過ごした。平成22年10月に中頓別へ移住し、今年4月に“黄金湯”を本格的にオープン。

中頓別町に住むことになったきっかけは？

4年前に中頓別町で開催されたソーシャルファーム（障害者の就労を推進する社会的企業）の講演会を聴きに来たことがきっかけです。中頓別のように小規模な町が、障害者の力を借りて地域づくりができるなら素晴らしいことだと思いました。

その後、黄金湯が売りに出されていることを知り、見に

きました。

以前から考えていた社会的企業を、黄金湯を舞台にやってみたくなって、2年前の秋に札幌市から移住しました。

なぜ、「株式会社自由起画」となったのですか？

起業時に助言をいただいた方たちの意見も参考に決めました。

スタートは渡辺個人の想いでも、個人的な夢に終わらせるのではなく、法人格を持つ会社に取り組む事業に育てていきたい、と思っています。

銭湯の燃料を現在の灯油から薪に変える用意をしていますが、すでに多くの皆さんのご協力をいただいています。私のような「よそ者」に厚い信頼を寄せ、熱く応援をしてくださるご好意を裏切らないよう、価値のある事業に育てなくては、という責任を感じています。

保健師として働いてきた経験から、障害者の「働く場」を社

会が保障するのは、丈夫な社会をつくる上で大切なことだと感じていたので、障害者を雇用する上でも知名度の高い「株式会社」を選びました。

中頓別町民になってからは？

たかさんの素晴らしい人達に出会うことができました。本当に感動の毎日を過ごしています。近所の人達から「無理するんじゃないよ」などといった優しい言葉掛けをいただくことも、とても嬉しいです。

最後に一言…

「こんな過疎の町に来て：こんな仕事を始めて：えらいね」と時々言われます。

廃業する銭湯の多い昨今、再開業したことで注目されている気がしますが、黄金湯が地域の宝物となるように末永く力を尽くしたい、と思っています。